

2022年度 大阪公立大学 前期 国語

第一問

問一 民藝は無名の工人による伝統工芸であるが、作家は個人的に特定の作品を創作する者だから。

問二 自我への執着からの解放を根本に、美を見出し人為的なねらいからの解放によって自然な作品を創作できるから。

問三 作家は自力で美を創作する点で、工人は協働的に伝統工芸を受容する点で厳しいが、共に美の創造という究極の目標に達するということ。

問四 伝統工芸のなかで修業し、昔の優品を目標に精進する過程で、熟成して工芸品に発揮されるつくり手の固有性。

問五 作家が自分の学ぶべき美しいものを伝統工芸に見出し、自分の仕事に活かすことを前提に、学びつつ模倣ではなく、个性的ではありながらも自然で作為のない作品を創造すること。

第二問

問一 a 異議 b 嫌・厭 c 委

問二 国家

問三 エ

問四 慣習や世間の目を気にせず自由気ままに行動したいと思いつつ、伝統的な習俗や慣習にもとらわれるという相克。

問五 自由で平等な権利をもつ独立した個人は、他人との同意を互いの自由意思で選択した結果、義務を負うということ。

問六 平等な権利をもつ個人は、自らの自由意思にもとづく合意によって、社会が存在するために守るべき秩序に従うという関係を形成するから。

問七 個人の自由と選択を拡大するものとして

2022年度 大阪公立大学 前期 国語

第三問 (A)

問一 誰にかおはする

問二 ア 驚きあきれることだ。

イ わけがあるのだろう。

ウ どうして人も気づくだろうか、いや気づくはずがない。

エ またとなく愛しいもの

オ 不可解にも思っているだろう。

問三 女が心配したとおり、女房の薄衣を長谷寺で奪ったことが分かり、女を捕らえるために後から大勢の人が追いかけてきたのだと困惑している。

問四 男が愛した亡き妻

問五 長谷寺の観音の配慮で男と何不自由な暮らしができていたのを無にするのは惜しいと思ったから。

問六 ・ 根も葉もないことを言ったことが男に分かって、命を失うことになるかもしれない思ったから。

・ 長谷寺の観音のお告げによって幸せな暮らしをしているのに、それを無にするような嘘をついてしまったから。

問七 (1) 長谷寺

(2) あらゆる人々を救済するという観音にお参りをして祈っているのに、期待した通りのこととがなくて、薄衣までも奪われたから。

問八 美濃の国の、土地の人からも尊敬されている男と夫婦になって何不自由な暮らしができるようになったことと、もともと身寄りの者もない女にとって、長谷寺で衣を盗まれた女と本物の姉妹と少しも変わらない縁を結ぶことができたこと。

2022 年度 大阪公立大学 前期 国語

第三問 (B)

問一 体力を使ってする労働に励んで、十分な衣食の世話をすることで父母を養うべきだと考えている。

問二 父親は子供に学問を教えなければならない。

問三 之を食ふも安くんぞ甘しとするを得ん(や)
(食へども)

問四 父母を養うために学問を捨てて衣食を豊かにしようとするよりも、顔家が代々継承してきた学問に励むことを望んでいる。